



関町小通信

平成30年1月9日
練馬区立関町小学校
学校だより 1月号

御家庭の食卓に「和食」は、並んでいますか？

校長 福岡 勤

平成30年、西暦2018年を迎えました。

皆様、改めまして、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

この年末から、年始にかけては、御家族お揃いで年替わり恒例のお食事を召し上がった方も多いことかと思えます。年越しの「そば」、正月の「もち」「雑煮」「おせち」などを食べることは、からだの中の邪気や災厄をはらい、健康長寿を願うといういたってシンプルなコンセプトの下での代表的な日本の食文化習慣です。

この日本の食文化の中心である「和食」がユネスコの「世界無形文化遺産」として登録されていることは御存知のことかと存じます。有形の建造物や景観の地域を対象とする世界遺産と同様、この文化遺産は、後世に残すべき伝統文化や慣習、口承文化のような無形のものを保護する世界遺産となります。日本の無形文化遺産としては「歌舞伎」「能楽」「人形浄瑠璃」などがございます。食文化は、人を取り巻く自然とその国や地域ならではの文化を背景に生まれます。食文化としての登録は「フランス料理」「地中海料理」などに続いて、世界で5番目だったということです。特に「和食」は、味わいもさることながら、我が国の社会的な慣習や歴史ある文化などが組み合わせたり、発展してきた料理であることが評価されての登録でした。

学校でも、意識してこの「和食」を給食のメニューにして提供していますが、この「和食」、日頃口にする機会が少ないためでしょうか、お子さんによっては、「和え物や魚料理はちょっと苦手...」という子がおります。好きなものばかり食べるのではなく、今年は、ぜひ御家庭においても献立を考える際、意識して世界でも注目されている「和食」を食卓に並べていただきたいと思えます。



「外国人と電話でけんかができるくらいでなければ、『英語が話せる』なんて言えませんよ。」と、とある住職さんが私に話してくれました。経歴をお伺いすると、お寺に入る前は年収がプロ野球選手並だったバリバリの海外マーケットを対象とする証券取引ディーラーだったとか...

ここまで、英語が話せるまでになるのには、相当（駅前）留学をせねばならないでしょうが、これからのさらなるグローバル化に備え、小学校でも英語ならぬ「外国語活動」のカリキュラムが段階的に組み入れられています。本校は、今年度は第3・4学年で年間10時間、第5・6学年で35時間行っておりますが、来年度は第3・4学年で5時間増の年間15時間、第5・6学年では15時間増の50時間行う予定です。

新学習指導要領が本格実施される2年後には、時間割を大幅に変えなければこの時数増に対応することができませんが、来年度は年間8回の土曜授業の4時間授業化などで生み出している余剰時間を活用して授業時数を捻出して対応いたします。

このように小学校のときから英語に親しむことで、中・高・大と英語を習ったはずなのに、大人になってもどうにも身に付いていない私のような人間が、少なくとも減ることが期待されます。